

バイオサイエンス学科 学会発表

【発表者について】アンダーラインは本学教員、研究員および技術職員、○は発表者、※は大学院生、卒研生または卒業生

学会名	日本植物生理学会2017（平成29年）第58回大会
演題名	Effects of jasmonates on the content of photosynthetic pigments in <i>Euglena gracilis</i> (ユーグレナにおけるジャスモン酸類の及ぼす光合成関連色素の含有量への影響)
発表者	加藤翔太[1],[2]、*高橋晃司[2]、*丹野夕麗[2]、 <u>山根久和</u> [1],[2]、 <u>篠村知子</u> [1],[2] [1]帝京大学大学院・総合理工学研究科、[2]帝京大学理工学部（*H28年度植物分子細胞学研究室の卒研生）
内容	<p>微細藻類<i>Euglena gracilis</i> (和名：ミドリムシ、以下<i>Euglena</i>と略す)の細胞内には、植物ホルモン的一种であるジャスモン酸が存在し、その機能はこれまでの本研究室の研究により、過剰な光エネルギーによる光障害に関与することがわかってきた。本発表では<i>Euglena</i>に存在するジャスモン酸の光合成関連色素への影響を解析し、<i>Euglena</i>に存在するジャスモン酸が細胞内のクロロフィルやカロテノイドの蓄積量の調節に関与している可能性が示唆される結果を報告した。</p> <p>本研究の一部は私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「植物オキシリピンの生理機能の解明とその応用」、および科学研究費補助金(基盤研究C)の支援を受け、H28年度の本研究室の卒研生と共同で研究を行った。</p>
関連画像	